



やぐもだい

令和7年10月31日

調布市立八雲台小学校

校長 石川 淳

<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



「小さなことばを省かずに」

校長 石川 淳

先日、4時間目の終わりに廊下にいると、授業を終えて教室に戻る子供たちが来ました。集団の最後のほうの数人が列から離れ、お手紙ボックスを覗いて配布物を持ち帰るようです。「持っていくんだ。」と言いながら一緒に歩きました。手紙を持った子は教室に入り、私はそのまま廊下を進みました。教室の中は給食の準備で担任も子供たちもあわただしそうでしたが、その中で「手紙持ってきたよ」「ありがとう」という遣り取りが聞こえてきました。発する側も受け取る側も、自然に、何気なく相手を認め、心を通わせているなど感心しました。

「いってきます」と 「いってらっしゃい」
「ただいま」 と 「おかえりなさい」
「いただきます」 と 「めしあがれ」

など、小さなことばを日々かけ合うのは、一見取るに足らないことのように思えますが、小さなことばは、対となって心のキャッチボールをしています。これは月日を重ねるにつれ、だんだんと大きな違いとなっていきます。当番だからやるのは当たり前、当たり前のことだから何も伝えないのでは、コミュニケーションが薄れて人間関係の土台が揺らいできます。

思春期が近づくにつれ、自分の世界から他人を閉め出したい気持ちが出てきて、コミュニケーションを避けることがあります。何かを言っても「べつに」「うるさいな」「放っておいてよ」などのことばが返ってきます。それでもことばを返してくれるうちは、きっかけができてまだよいのですが、まったく何も言わない状態になる場合もあります。ことばのキャッチボールが途切れ、心がどんどん離れていきます。しかし、日頃から小さなことばを大切にしているとそれが習慣化し、反射的にことばのキャッチボールができるようになります。するとどんな時でも、コミュニケーションがとれる状態に保たれます。

小さなことばを省かない姿勢を自分が先に発していきたいものです。小さなことばに乗っている心のキャッチボールを通して、自他のよさや思いに気付き、互いによさを伸ばそうとする人に成長させていきます。

コミュニティスクールコーナー

11月15日（土）に学校運営協議会が行われます。学習発表会を鑑賞していただきます。八雲台小学校の子どもたちが表現する楽しさを味わっている姿を見ていただきます。前回に引き続き次年度の行事予定についても熟議を重ね、子どもたちにとってより良い教育活動になるように検討を進めます。